

ハウレンソウケナガコナダニのコナダニ見張番による防除判断技術

○本田善之（山口農総セ）、中田恵久（サンケイ化学(株)）

全国のハウレンソウ産地では、ハウレンソウケナガコナダニ(*Tyrophagus similis* Volgin 以下コナダニと略)の被害が拡大している。本虫は発生確認が困難であるため、栽培者は薬剤を多数回散布する傾向にあり、薬剤抵抗性発達の危険性が增大している。講演では開発したモニタリングできるトラップの仕組みと防除判断について紹介する。

1. コナダニ見張番の仕組みと構造

コナダニは、湿度、摂食できる餌、微細な空間環境の3条件が揃った場合に、誘引定着しやすいことが確認されている（本田ら 2011）。コナダニ見張番は、この3条件を満たすため、上部、下部、誘引シートの3つの部品で構成されている。これらを組み合わせることで高湿度だが濡れていない好適な餌が微細な空隙に存在し、コナダニを誘引定着させる。

2. 収穫期の防除判断技術

<試験方法>

山口県周南市のハウレンソウハウス（25ハウス、品種:トラッド他）において、2008～2011年2～4月及び9～10月に、被害調査前作の収穫期にコナダニ見張番(プロトタイプ)*による調査（1～3日後にコナダニを計数）を実施した。また、次作のハウレンソウにおいて、被害程度を被害株率が、100～70%(多被害)、70～30%(中被害)、30～1%(少被害)、0%(被害なし)として調査した。

<結果と考察>

ロジスティック回帰による「コナダニ見張番」の捕獲数と被害との相関関係は0.894と高かった。被害の発生圃場率は、収穫期の「コナダニ見張番」により発生確認した場合(N=12)で約90%、発生が未確認の場合(N=13)で約10%であった(図1)。収穫期の調査に加え、2葉期、4葉期の調査を加えると、被害の予測精度は更に高くなると考えられる。

*プロトタイプ型は山口県がコナダニ見張番を開発した当初の型

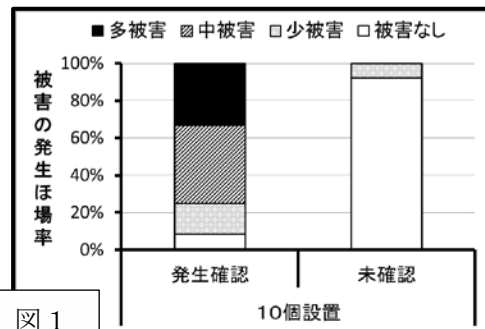


図1

3. コナダニ見張番の商品化

このトラップは、農林水産省「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の中で商品化を図った。その結果、コナダニ見張番（プロトタイプ）と材質は異なるが、構造は等しく、捕獲効率が同等（図2）の商品版「コナダニ見張番」が完成した（図3）。本年5月より植物防疫協会を通じて販売が開始されている。今後は全国の様々な圃場での実証を行い、改善を図りたい。

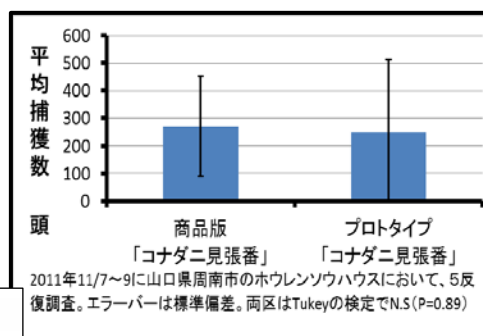


図2



図3